

Volume Shredder

ユーザガイド

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 21

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 23

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 26

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 28

4050-1J-U19-60

このストレージシステムをご使用になる前に、このガイドをよくお読みください。安全上の指示や注意事項を必ずお守りください。このガイドをいつでも参照できるように、手近なところに保管してください。

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2024, 2026, Hitachi Vantara, Ltd.

免責事項

このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製することはできません。

このマニュアルの内容については、将来予告なしに変更することがあります。

このマニュアルに基づいてソフトウェアを操作した結果、たとえ当該ソフトウェアがインストールされているお客様所有のコンピュータに何らかの障害が発生しても、当社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。このマニュアルの当該ソフトウェアご購入後のサポートサービスに関する詳細は、弊社営業担当にお問い合わせください。

商標類

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

発行

2026 年 3 月 (4050-1J-U19-60)

目次

はじめに.....	5
対象ストレージシステム.....	6
マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン.....	6
対象読者.....	6
マニュアルで使用する記号について.....	6
「容量削減機能が有効なボリューム」について.....	7
ユーザの操作権限（ロール）について.....	7
REST API の管理ツールについて.....	7
発行履歴.....	7
 1.Volume Shredder の概要.....	11
1.1 Volume Shredder とは.....	12
1.2 シュレディング機能の概要.....	12
1.3 シュレディング機能の所要時間.....	13
1.3.1 SSD（NVMe インターフェース）の標準所要時間.....	14
 2.Volume Shredder の操作.....	17
2.1 フラッシュディスクに対するシュレディング回数を算出する.....	18
2.2 ボリュームを選択して閉塞する.....	19
2.3 ボリュームを選択してシュレディングを実行する.....	19
2.4 シュレディング状況を確認する.....	20
2.5 シュレディングを中断する.....	20
 3.Volume Shredder のトラブルシューティング.....	21
3.1 お問い合わせ先.....	22
 付録 A このマニュアルの参考情報.....	23
A.1 操作対象リソースについて.....	24
A.2 このマニュアルでの表記.....	24
A.3 このマニュアルで使用している略語.....	24
A.4 KB（キロバイト）などの単位表記について.....	24

用語解説.....	25
索引.....	41



はじめに

このマニュアルでは、Volume Shredder の概要と使用方法について説明しています。

- 対象ストレージシステム
- マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン
- 対象読者
- マニュアルで使用する記号について
- 「容量削減機能が有効なボリューム」について
- ユーザの操作権限（ロール）について
- REST API の管理ツールについて
- 発行履歴

対象ストレージシステム

このマニュアルでは、次に示すストレージシステムに対応する製品（プログラムプロダクト）を対象として記述しています。

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 20

- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 21
- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 23
- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 26
- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 28

このマニュアルでは特に断りのない限り、上記モデルのストレージシステムを単に「ストレージシステム」または「本ストレージシステム」と称することがあります。

マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン

このマニュアルは、次の DKCMAIN ファームウェアバージョンに適合しています。

- A3-05-21-XX
- A3-04-23-XX



メモ

- このマニュアルは、上記バージョンのファームウェアをご利用の場合に最も使いやすくなるよう作成されていますが、上記バージョン未満のファームウェアをご利用の場合にもお使いいただけます。
- 各バージョンによるサポート機能については、別冊の『バージョン別追加サポート項目一覧』を参照ください。

対象読者

このマニュアルは、次の方を対象読者として記述しています。

- ストレージシステムを運用管理する方
- UNIX[®] コンピュータまたは Windows[®] コンピュータを使い慣れている方
- Web ブラウザを使い慣れている方

マニュアルで使用する記号について

このマニュアルでは、注意書きや補足情報を、次のとおり記載しています。



注意

データの消失・破壊のおそれや、データの整合性がなくなるおそれがある場合などの注意を示します。



メモ

解説、補足説明、付加情報などを示します。



ヒント

より効率的にストレージシステムを利用するのに役立つ情報を示します。

「容量削減機能が有効なボリューム」について

このマニュアルで「容量削減機能が有効なボリューム」と記載されている場合、特に断りのない限り、データ削減共有ボリュームおよび dedupe and compression により容量削減機能を有効に設定した仮想ボリュームのことを示します。

ユーザの操作権限（ロール）について

このマニュアルに記載されている、RAID Manager および内蔵 CLI を操作する際に、前提条件として必要となるロールの詳細は、『RAID Manager ユーザガイド』※を参照してください。

注※

詳細は、「ユーザ認証機能」の Storage Navigator または maintenance utility で設定したユーザの操作権限に従って実行されるコマンドに関する記載を参照してください。

REST API の管理ツールについて

Virtual Storage Platform One Block 20 が提供する REST API の管理ツールには、次の 2 種類があります。それぞれの特徴や使い分けなどの詳細は『VSP Block Storage REST API リファレンスガイド』を参照してください。

「REST API」と記載している箇所は、次の両方の REST API を示します。

REST API 管理ツール	DKCMAIN バージョン A3-04-22-XX 以前の マニュアル上の表記	説明
シンプル API	VSP One Block Administrator の API	リクエストラインに simple を含む REST API です。 基本的なプロビジョニングのために設計されており、高速な実行を確保するためのアーキテクチャーを取り入れています。 設定項目は最小限に抑えられ、複雑さを軽減し、効率的な手順で迅速にシステムのプロビジョニングができます。
詳細 API	REST API	リクエストラインに simple を含まない REST API です。 プロビジョニングのための詳細な設定項目を提供しており、ストレージシステムが混在した環境での高度な設定に対応した、幅広い選択肢が用意されています。設定にはシンプル API よりも多くの手順を伴いますが、より柔軟な制御を実現できます。

発行履歴

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
4050-1J-U19-60	2026 年 3 月	適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン : A3-05-21-XX、 A3-04-23-XX

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
		- ストレージシステムの新しいモデルとして VSP One B21 をサポートした。 1.3.1 SSD (NVMe インターフェース) の標準所要時間 A.2 このマニュアルでの表記 - REST API の表記を変更した。
4050-1J-U19-50	2025 年 8 月	適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン : A3-04-21-XX - 操作の前提条件に記載されているロールを削除した。 2.1 フラッシュディスクに対するシュレディング回数を算出する 2.2 ボリュームを選択して閉塞する 2.3 ボリュームを選択してシュレディングを実行する 2.5 シュレディングを中断する - DDP RAID5 サポートに関する記載を修正した。 1.3.1 SSD (NVMe インターフェース) の標準所要時間 - QLC ドライブ (15TB、30TB、60TB) をサポートした。 1.3.1 SSD (NVMe インターフェース) の標準所要時間
4050-1J-U19-40	2025 年 1 月	適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン : A3-04-01-XX - 参照ガイド名を修正した。 1.1 Volume Shredder とは 2.1 フラッシュディスクに対するシュレディング回数を算出する - シュレディング機能の所要時間に関する記載を修正した。 1.3 シュレディング機能の所要時間
4050-1J-U19-30	2024 年 9 月	適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン : A3-03-01-XX - VSP One B26 および VSP One B28 で、NVMe SSD : 60TB をサポートした。 1.3.1 SSD (NVMe インターフェース) の標準所要時間
4050-1J-U19-20	2024 年 5 月	適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン : A3-02-21-XX - 本マニュアルで使用していない略語の説明を削除した。 - マニュアルで使用する記号について - 記載内容の改善をした。 1.3 シュレディング機能の所要時間 2.1 フラッシュディスクに対するシュレディング回数を算出する - プールボリュームに対してのシュレディング機能を実行する説明を追加した。 1.2 シュレディング機能の概要
4050-1J-U19-10	2024 年 3 月	適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン : A3-02-01-XX - dedupe and compression による容量削減機能をサポートした。 「容量削減機能が有効なボリューム」について - VSP One B20 で、通常パリティグループ、通常 VOL、DP-VOL 非サポートにより記載を修正した。 1.3.1 SSD (NVMe インターフェース) の標準所要時間

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
		2.1 フラッシュディスクに対するシュレッディング回数を算出する
4050-1J-U19-00	2024 年 1 月	新規 適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン : A3-01-01-XX

Volume Shredder の概要

シュレッディング機能を利用するには、Volume Shredder というソフトウェアが必要です。

このマニュアルでは、ダミーデータを上書きすることでボリューム内のデータを消去する処理をシュレッディングと呼びます。

- 1.1 Volume Shredder とは
- 1.2 シュレッディング機能の概要
- 1.3 シュレッディング機能の所要時間

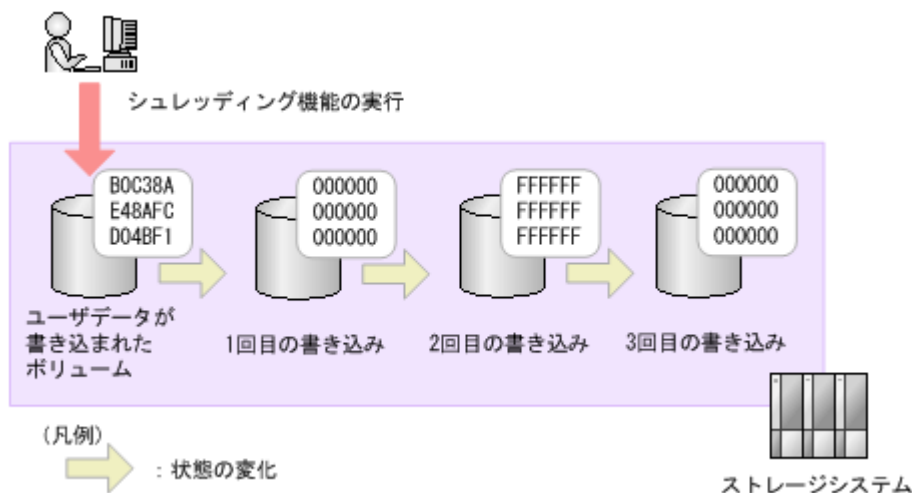
1.1 Volume Shredder とは

Volume Shredder は、ボリューム内のすべてのデータを消去し、復元できないようにするソフトウェアです。今までボリュームを使用していたユーザとは別のユーザが、そのボリュームを使用することになった場合、セキュリティの観点から、旧ユーザのデータは完全に消去しておく必要があります。Volume Shredder は、米国国防総省が定める DoD5220.22-M という規格に準じており、ボリューム内のデータを完全に消去できます。なお、このマニュアルでは Volume Shredder が提供する機能をシュレッディング機能と呼びます。

RAID Manager、または詳細 API から設定できます。ただし、データ消去対象ボリュームの容量は、RAID Manager で確認できません。VSP One Block Administrator 『VSP One Block Administrator ユーザガイド』を参照)、または詳細 API の GET <ベース URL>/v1/objects/parity-groups 『VSP Block Storage REST API リファレンスガイド』を参照) で確認してください。

1.2 シュレッディング機能の概要

Volume Shredder のシュレッディング機能は、指定したボリュームに意味のないダミーデータを繰り返し上書きすることで、そのボリュームにもともと書き込まれていたデータを完全に消去する機能です。シュレッディング機能を利用するには、管理ツールの操作端末から Volume Shredder を操作します。管理ツールの操作端末からシュレッディング機能を実行する例を次の図に示します。



シュレッディング機能を実行すると、ユーザデータが書き込まれたボリューム全体にダミーデータが書き込まれ、ユーザデータは消去されます。ただし、ドライブの特性上、1回の上書きだけでは、ユーザデータの消去が不完全になり、消去したはずのユーザデータを復元できてしまうおそれがあります。

このため、Volume Shredder では、少なくとも3回はダミーデータをボリュームに書き込むことを推奨し、デフォルトの設定では、ボリューム全体に3回ダミーデータが上書きされるようになっています。デフォルトの設定を変更すれば、最大8回までダミーデータを書き込むことができます。

シュレッディング機能は、LDEV、CVなどのボリュームの種類に関係なく実行できます。

シュレッディング機能を実行するボリュームは、閉塞状態にしておく必要があります。正常状態のボリュームは、シュレッディング機能の対象になりません。

ただし、次のボリュームに対してシュレディング機能を使用することはできません。

- プールボリューム
- ジャーナルボリューム
- アクセス属性が Read/Write 以外のボリューム
- 重複排除用システムデータボリューム
- 容量削減機能が有効な仮想ボリューム
- ダイナミックスペアリング中のパリティグループに属しているボリューム
- コレクションアクセス中のパリティグループに属しているボリューム
- コピーバック中のパリティグループに属しているボリューム

プールボリュームに対してシュレディング機能を実行する際は、対象のプールボリュームが属しているプールを削除するか、または対象のプールボリュームをプールから削除した後で実行してください。

また、シュレディング機能実行中は、実行対象のボリュームが属しているドライブの保守操作は実行できません。

なお、シュレディング機能を実行する場合、LDEV 数が多いときは、ホスト I/O に影響をおよぼすことがあるため、ホスト負荷の低い時間帯に実行することを推奨します。

関連概念

- [1.3 シュレディング機能の所要時間](#)

関連タスク

- [2.2 ボリュームを選択して閉塞する](#)
- [2.3 ボリュームを選択してシュレディングを実行する](#)

1.3 シュレディング機能の所要時間

シュレディング機能実行の所要時間は次の計算式で算出できます。

シュレディング機能実行の所要時間=1 回のダミーデータ書き込みに掛かる時間（標準所要時間）
×ダミーデータ書き込み回数(n)

標準所要時間はドライブ種別によって異なります。

- [1.3.1 SSD（NVMe インターフェース）の標準所要時間](#)

標準所要時間に関する補足と注意事項

- I/O がない場合の、1TB/1 パリティグループ当たりのシュレディングの所要時間です。
- 1 つのパリティグループ内の LDEV に対するシュレディングの所要時間です。
- シュレディング対象の LDEV 数は、1 パリティグループまたは 1 プール内の 1TB の容量内に、1LDEV 当たりの容量を 100GB だと仮定した場合の、最大 LDEV 数です。標準所要時間は、対象のすべての LDEV をシュレディングする所要時間です。
- シュレディング対象 LDEV の 1LDEV 当たりの容量が 100GB でない場合は、シュレディングの所要時間が、このマニュアルに記載されている所要時間より、長くかかる場合があります。

- ・ 暗号化されたドライブで構成されたパリティグループ上のボリュームに対してシュレッディング機能を実行する場合も、標準所要時間は同じです。
- ・ 1回のダミーデータ書き込みに掛かる時間です。Volume Shredder のデフォルトの設定では、ボリューム全体にダミーデータが 3 回上書きされるため、記載されている標準所要時間の 3 倍時間が掛かります。
- ・ I/O がある場合、シュレッディング所要時間は、最短でも 6 倍以上の時間が必要です。
- ・ 高負荷の I/O（シュレッディング対象パリティグループ以外を含む）がある場合、シュレッディングが失敗する可能性があります。この場合、I/O 負荷を下げて再度シュレッディングを実行してください。
- ・ SSD（NVMe インターフェース）では、SSD の内部状態によっては所要時間が 1/4 以下になることがあります。

関連概念

- ・ [1.2 シュレッディング機能の概要](#)

1.3.1 SSD（NVMe インターフェース）の標準所要時間

- ・ NVMe SSD : 1.9TB

RAID レベル		1.9TB	
		標準所要時間（単位：分）	
		VSP One B21/ VSP One B23	VSP One B26/ VSP One B28
RAID5	3D+1P	10	5
RAID6	6D+2P	5	5
	14D+2P	5	5

- ・ NVMe SSD : 3.8TB

RAID レベル		3.8TB	
		標準所要時間（単位：分）	
		VSP One B21/ VSP One B23	VSP One B26/ VSP One B28
RAID5	3D+1P	10	5
RAID6	6D+2P	5	5
	14D+2P	5	5

- ・ NVMe SSD : 7.6TB

RAID レベル		7.6TB	
		標準所要時間（単位：分）	
		VSP One B21/ VSP One B23	VSP One B26/ VSP One B28
RAID5	3D+1P	10	5
RAID6	6D+2P	5	5

RAID レベル		7.6TB	
		標準所要時間（単位：分）	
		VSP One B21/ VSP One B23	VSP One B26/ VSP One B28
	14D+2P	5	5

- NVMe SSD : 15TB

RAID レベル		15TB	
		標準所要時間（単位：分）	
		VSP One B21/ VSP One B23	VSP One B26/ VSP One B28
RAID5	3D+1P	15	5
RAID6	6D+2P	5	5
	14D+2P	5	5

- NVMe SSD : 30TB

RAID レベル		30TB	
		標準所要時間（単位：分）	
		VSP One B26/VSP One B28	
RAID5	3D+1P	5	
RAID6	6D+2P	5	
	14D+2P	5	

- NVMe SSD : 60TB

RAID レベル		60TB	
		標準所要時間（単位：分）	
		VSP One B26/VSP One B28	
RAID5	3D+1P	5	
RAID6	6D+2P	5	
	14D+2P	5	

- NVMe SSD (QLC) : 15TB

RAID レベル		15TB		
		標準所要時間（単位：分）		
		VSP One B21/ VSP One B23	VSP One B26	VSP One B28
RAID5	3D+1P	100	25	37.5
RAID6	6D+2P	50	12.5	25

RAID レベル		15TB		
		標準所要時間（単位：分）		
		VSP One B21/ VSP One B23	VSP One B26	VSP One B28
	14D+2P	25	12.5	12.5

- NVMe SSD（QLC）：30TB

RAID レベル		30TB		
		標準所要時間（単位：分）		
		VSP One B21/ VSP One B23	VSP One B26	VSP One B28
RAID5	3D+1P	100	25	37.5
RAID6	6D+2P	50	12.5	25
	14D+2P	25	12.5	12.5

- NVMe SSD（QLC）：60TB

RAID レベル		60TB	
		標準所要時間（単位：分）	
		VSP One B26	VSP One B28
RAID5	3D+1P	25	37.5
RAID6	6D+2P	12.5	25
	14D+2P	12.5	12.5

Volume Shredder の操作

この章では、Volume Shredder の操作方法を説明します。

- 2.1 フラッシュディスクに対するシュレディング回数を算出する
- 2.2 ボリュームを選択して閉塞する
- 2.3 ボリュームを選択してシュレディングを実行する
- 2.4 シュレディング状況を確認する
- 2.5 シュレディングを中断する

2.1 フラッシュディスクに対するシュレディング回数を算出する

フラッシュディスクでは、ライト要求に対しその時点で未使用の領域を新たに割り当て、それまで使用していた領域（データ消去対象ボリューム）を未使用領域とします。このため、フラッシュディスクではデータ消去対象ボリュームの容量以上のデータでの上書き処理によるデータ消去が必要となります。

操作で使用するコマンド

- データ消去対象ボリュームの容量確認※
- RAID を構成する Data 台数の確認（raidcom get parity_grp コマンド）
- RAID を構成するドライブの台数、1 台当たりのドライブ容量の確認（raidcom get drive コマンド）

注※

データ消去対象ボリュームの容量は、RAID Manager で確認できません。VSP One Block Administrator『VSP One Block Administrator ユーザガイド』を参照)、または詳細 API の GET <ベース URL >/v1/objects/parity-groups『VSP Block Storage REST API リファレンスガイド』を参照) で確認してください。

算出手順

1. データ消去対象ボリュームが属するパリティグループの構成を確認してください。
データ消去対象ボリュームの容量、RAID 構成する Data 台数と Parity 台数、および RAID を構成するドライブ台数を確認してください。
(例) RAID 構成する Data 台数の確認
RAID6(nD+2P)の n
(例) RAID 構成する Parity 台数の確認
RAID6(nD+2P)の 2
2. データ消去対象ボリュームに対するダミーデータの上書きに必要なシュレディング回数を N として、算出式を次に示します。

パリティグループのドライブ容量 = (1 台当たりのドライブ容量 × ドライブ台数 × Data 台数) ÷ (Data 台数 + Parity 台数)
N (小数点以下を切り上げ) = (パリティグループのドライブ容量 × 2) ÷ (データ消去対象ボリュームの容量)

3. シュレディング回数 N から次の式でコマンド実行回数を求めます。

コマンド実行回数 (小数点以下を切り上げ) = $N \div 3$

上記で求めたコマンド実行回数分、「[2.2 ボリュームを選択して閉塞する](#)」「[2.3 ボリュームを選択してシュレディングを実行する](#)」に記載の操作を繰り返し実行してください。

シュレッディング回数の算出例

構成例：RAID 構成するドライブ台数=9 台、フラッシュディスク=400GB、RAID 構成=6D+2P、LDEV=440GB の場合

$$((400 \times 9 \times 6) \div (6+2)) \times 2 \div 440 = 12.27$$

上記の値の小数点以下は切り上げてください。この場合、ダミーデータの書き込み設定が 13 回必要です。

コマンド実行回数は 5 回必要です。小数点以下は切り上げてください。

$$13 \div 3 = 4.33$$

2.2 ボリュームを選択して閉塞する

操作で使用するコマンド

- ・ ボリュームを選択して閉塞 (raidcom modify ldev コマンド)

関連タスク

- ・ [2.3 ボリュームを選択してシュレッディングを実行する](#)

2.3 ボリュームを選択してシュレッディングを実行する

ボリュームを選択してデータを消去する手順を次に示します。

操作で使用するコマンド

- ・ ボリュームを選択してシュレッディング (raidcom initialize ldev コマンド)



メモ

- ・ データパターンをランダム値で指定したい場合は、ランダムデータを生成して、各 UI のパターンに指定してください。
ランダムデータを PowerShell で生成させる例

```
PS C:\> [convert]::ToString((Get-Random -Minimum -2147483648 -Maximum 2147483647),16)
```

生成されたランダムデータの例

dce0876a

- ・ シュレッディング完了後は、ボリュームの状態が閉塞状態「Blocked」から自動的に「Normal」になります。

関連タスク

- ・ [2.2 ボリュームを選択して閉塞する](#)

2.4 シュレッディング状況を確認する

シュレッディングの進捗状況を確認します。

操作で使用するコマンド

- ・ シュレッディング状況の確認 (raidcom get ldev コマンド)

2.5 シュレッディングを中断する

シュレッディングを中断します。

操作で使用するコマンド

- ・ シュレッディングを中断 (raidcom initialize ldev コマンド)



注意

中断したシュレッディングは、再開できません。シュレッディングを中断した場合、そのボリュームのデータ消去状況は保証されません。

Volume Shredder のトラブルシューティング

Volume Shredder のトラブルシューティングを説明します。

□ 3.1 お問い合わせ先

3.1 お問い合わせ先

- 保守契約をされているお客様は、以下の連絡先にお問い合わせください。
日立サポートサービス：<http://www.hitachi-support.com/>
- 保守契約をされていないお客様は、担当営業窓口にお問い合わせください。

このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

- [A.1 操作対象リソースについて](#)
- [A.2 このマニュアルでの表記](#)
- [A.3 このマニュアルで使用している略語](#)
- [A.4 KB（キロバイト）などの単位表記について](#)

A.1 操作対象リソースについて

このマニュアルで説明している機能を使用するときには、各操作対象のリソースが特定の条件を満たしている必要があります。

各操作対象のリソースの条件については『システム構築ガイド』を参照してください。

A.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルで使用している表記を次の表に示します。

表記	製品名
DP	Dynamic Provisioning
VSP One B21	Virtual Storage Platform One Block 21
VSP One B23	Virtual Storage Platform One Block 23
VSP One B26	Virtual Storage Platform One Block 26
VSP One B28	Virtual Storage Platform One Block 28
VSP One B20	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 - Virtual Storage Platform One Block 21 - Virtual Storage Platform One Block 23 - Virtual Storage Platform One Block 26 - Virtual Storage Platform One Block 28

A.3 このマニュアルで使用している略語

このマニュアルで使用している略語を次の表に示します。

略語	フルスペル
CV	Customized Volume
I/O	Input/Output
LDEV	Logical DEvice
SSD	Solid-State Drive

A.4 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）は1,024バイト、1MB（メガバイト）は1,024KB、1GB（ギガバイト）は1,024MB、1TB（テラバイト）は1,024GB、1PB（ペタバイト）は1,024TBです。

1block（ブロック）は512バイトです。



用語解説

(英字)

ALUA

(Asymmetric Logical Unit Access)

SCSI の非対称論理ユニットアクセス機能です。

ストレージ同士、またはサーバとストレージシステムを複数の冗長パスで接続している構成の場合に、どのパスを優先して使用するかをストレージシステムに定義して、I/O を発行できます。優先して使用するパスに障害が発生した場合は、他のパスに切り替わります。

bps

(bits per second)

データ転送速度の標準規格です。

CHAP

(Challenge Handshake Authentication Protocol)

認証方式のひとつ。ネットワーク上でやり取りされる認証情報はハッシュ関数により暗号化されるため、安全性が高いです。

CHB

(Channel Board)

詳しくは「チャンネルボード」を参照してください。

Child

Thin Image Advanced の用語で、Parent のメタデータを共有する先のペアまたはボリュームを指します。

Family 内に vClone 属性のボリュームが存在しない場合、ルートボリュームと同じスナップショットツリーに属するペアまたはボリュームが該当します。

Family 内に vClone 属性のボリュームが存在する場合、vClone Parent 属性のボリュームと同じスナップショットツリーに属するペアまたはボリューム、同一 Family 内の vClone 属性のボリューム、同一 Family 内の vClone 属性のボリュームと同じスナップショットツリーに属するペアまたはボリュームが該当します。

CM

(Cache Memory (キャッシュメモリ))

詳しくは「キャッシュ」を参照してください。

CNA

(Converged Network Adapter)

HBA と NIC を統合したネットワークアダプタ。

CRC

(Cyclic Redundancy Check)

巡回冗長検査。コンピュータデータに対し、偶発的变化を検出するために設計された誤り訂正符号。

CSV

(Comma Separate Values)

データベースソフトや表計算ソフトのデータをファイルとして保存するフォーマットの1つで、主にアプリケーション間のファイルのやり取りに使われます。それぞれの値はコンマで区切られています。

CTG

(Consistency Group)

詳しくは「コンシステンシーグループ」を参照してください。

CU

(Control Unit (コントロールユニット))

主に磁気ディスク制御装置を指します。

CV

(Customized Volume)

任意のサイズが設定された可変ボリュームです。

DDP

(Dynamic Drive Protection)

パリティグループを構成する各ドライブの領域を複数の領域に分割して、各ドライブ内の分割された領域の1つを、スペア用の領域として使用します。これにより、リビルド I/O、または Correction I/O を分散できるため、リビルド時間が短縮できます。

DDP 用のパリティグループ

DDP 機能が有効なパリティグループのことです。

DKBN

(Disk Board NVMe)

NVMe ドライブとキャッシュメモリ間のデータ転送を制御するモジュールです。

DKC

(Disk Controller)

ストレージシステムを制御するコントローラが備わっているシャーシ（筐体）です。

DKU

各種ドライブを搭載するためのシャーシ（筐体）です。

DB(Drive Box)と同義語となります。

DP-VOL

詳しくは「仮想ボリューム」を参照してください。

ECC

(Error Check and Correct)

ハードウェアで発生したデータの誤りを検出し、訂正することです。

ENC

ドライブボックスに搭載され、コントローラシャーシまたは他のドライブボックスとのインターフェース機能を有します。

ESM

(Embedded Storage Manager)

Hitachi Virtual Storage Platform One Block 20 における管理系ソフトウェアです。

ESMOS

(Embedded Storage Manager Operating System)

ESM を動作させるための OS や OSS を含んだファームウェアです。

ExG

(External Group)

外部ボリュームを任意にグループ分けしたものです。詳しくは「外部ボリュームグループ」を参照してください。

Failover

故障しているものと機能的に同等のシステムコンポーネントへの自動的置換。

この **Failover** という用語は、ほとんどの場合、同じストレージデバイスおよびホストコンピュータに接続されているインテリジェントコントローラに適用されます。

コントローラのうちの 1 つが故障している場合、**Failover** が発生し、残っているコントローラがその I/O 負荷を引き継ぎます。

Family

Thin Image Advanced の用語で、メタデータを共有する **Parent** (メタデータ共有元となるボリューム) と **Child** (**Parent** のメタデータ共有するペアまたはボリューム) の群れを指します。

FC

(Fibre Channel)

ストレージシステム間のデータ転送速度を高速にするため、光ケーブルなどで接続できるようにするインターフェースの規格のことです。

FC-NVMe

Fibre Channel ネットワーク越しにホストとストレージ間で、NVMe-oF 通信プロトコルによる通信をするための NVMe over Fabrics 技術のひとつです。

FM

(Flash Memory (フラッシュメモリ))

詳しくは「フラッシュメモリ」を参照してください。

GID

(Group ID)

ホストグループを作成するときに付けられる 2 桁の 16 進数の識別番号です。

GUI

(Graphical User Interface)

コンピュータやソフトウェアの表示画面をウィンドウや枠で分け、情報や操作の対象をグラフィック要素を利用して構成するユーザインターフェース。マウスなどのポインティングデバイスで操作することを前提に設計されます。

HBA

(Host Bus Adapter)

詳しくは「ホストバスアダプタ」を参照してください。

I/O モード

global-active device ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームが、それぞれに持つ I/O の動作です。

I/O レート

ドライブへの入出力アクセスが 1 秒間に何回行われたかを示す数値です。単位は IOPS (I/Os per second) です。

In-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、管理ツールの操作端末またはサーバから、ストレージシステムのコマンドデバイスにコマンドが転送されます。

Initiator

属性が RCU Target のポートと接続するポートを持つ属性です。

iSNS

(Internet Storage Naming Service)

iSCSI デバイスで使われる、自動検出、管理および構成ツールです。

iSNS によって、イニシエータおよびターゲット IP アドレスの特定リストで個々のストレージシステムを手動で構成する必要がなくなります。代わりに、iSNS は、環境内のすべての iSCSI デバイスを自動的に検出、管理および構成します。

LACP

(Link Aggregation Control Protocol)

複数回線を 1 つの論理的な回線として扱うための制御プロトコル。

LAN ボード

コントローラシャーシに搭載され、ストレージシステムの管理、UPS とのインターフェース機能を有するモジュールです。

LDEV

(Logical Device (論理デバイス))

RAID 技術では冗長性を高めるため、複数のドライブに分散してデータを保存します。この複数のドライブにまたがったデータ保存領域を論理デバイスまたは LDEV と呼びます。ストレージ内の LDEV は、LDKC 番号、CU 番号、LDEV 番号の組み合わせで区別します。LDEV に任意の名前を付けることもできます。

このマニュアルでは、LDEV (論理デバイス) を論理ボリュームまたはボリュームと呼ぶことがあります。

LDEV 名

LDEV 作成時に、LDEV に付けるニックネームです。あとから LDEV 名の変更もできます。

LDKC

(Logical Disk Controller)

複数の CU を管理するグループです。各 CU は 256 個の LDEV を管理しています。

LUN

(Logical Unit Number)

論理ユニット番号です。オープンシステム用のボリュームに割り当てられたアドレスです。オープンシステム用のボリューム自体を指すこともあります。

LUN セキュリティ

LUN に設定するセキュリティです。LUN セキュリティを有効にすると、あらかじめ決めておいたホストだけがボリュームにアクセスできるようになります。

LUN パス、LU パス

オープンシステム用ホストとオープンシステム用ボリュームの間を結ぶデータ入出力経路です。

LUSE ボリューム

オープンシステム用のボリュームが複数連結して構成されている、1つの大きな拡張ボリュームのことです。ボリュームを拡張することで、ポート当たりのボリューム数が制限されているホストからもアクセスできるようになります。

MP ユニット

データ入出力を処理するプロセッサを含んだユニットです。データ入出力に関連するリソース (LDEV、外部ボリューム、ジャーナル) ごとに特定の MP ユニットの割り当てると、性能をチューニングできます。特定の MP ユニットの割り当ての方法と、ストレージシステムが自動的に選択した MP ユニットの割り当ての方法があります。MP ユニットに対して自動割り当ての設定を無効にすると、その MP ユニットがストレージシステムによって自動的にリソースに割り当てられることはないため、特定のリソース専用の MP ユニットとして使用できます。

MU

(Mirror Unit)

1つのプライマリボリュームと1つのセカンダリボリュームを関連づける情報です。

Namespace

複数 LBA 範囲をまとめた、論理ボリュームの空間のことです。

Namespace Globally Unique Identifier

Namespace を識別するための、グローバルユニーク性を保証する 16Byte の識別情報です。SCSI LU での NAA Format6 で表現される、WWN に類似する情報です。

Namespace ID

NVM サブシステム上に作成された Namespace を、NVM サブシステムの中でユニークに識別するための識別番号です。

NGUID

(Namespace Globally Unique Identifier)

詳しくは、「Namespace Globally Unique Identifier」を参照してください。

NQN

(NVMe Qualified Name)

NVMe-oF 通信プロトコルで、NVMe ホストまたは NVM サブシステムを特定するためのグローバルユニークな識別子です。

NSID

(Namespace ID)

Namespace を特定するための、4Byte の識別情報です。

NVM

(Non-Volatile Memory)

不揮発性メモリです。

NVMe

(Non-Volatile Memory Express)

PCI Express を利用した SSD の接続インタフェース、通信プロトコルです。

NVMe over Fabrics

NVMe-oF 通信プロトコルによる通信を、様々な種類のネットワークファブリックに拡張する NVMe のプロトコルです。

NVMe/TCP

TCP/IP ネットワーク越しにホストとストレージ間で、NVMe-oF 通信プロトコルによる通信をするための NVMe over Fabrics 技術のひとつです。

NVMe コントローラ

NVMe ホストからのコマンド要求を処理する、物理的または論理的な制御デバイスです。

NVM サブシステム

NVM のデータストレージ機能を提供する制御システムです。

NVM サブシステムポート

ホストとコントローラが、NVMe I/O をするための Fabric に接続する通信ポートです。

Out-of-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、クライアントまたはサーバから LAN 経由で ESM/RAID Manager サーバの中にある仮想コマンドデバイスにコマンドが転送されます。仮想コマンドデバイスからストレージシステムに指示を出し、ストレージシステムで処理が実行されます。

Parent

Thin Image Advanced の用語で、メタデータの共有元となるボリュームを指します。

Family 内に vClone 属性のボリュームが存在しない場合、ルートボリュームが該当します。

Family 内に vClone 属性のボリュームが存在する場合、vClone Parent 属性のボリュームが該当します。

PCB

(Printed Circuit Board)

プリント基盤です。このマニュアルでは、コントローラボードやチャネルボード、ディスクボードなどのボードを指しています。

Point to Point

2 点を接続して通信するトポロジです。

Quorum ディスク

パスやストレージシステムに障害が発生したときに、global-active device ペアのどちらのボリュームでサーバからの I/O を継続するのかを決めるために使われます。外部ストレージシステムに設置します。

RAID

(Redundant Array of Independent Disks)

独立したディスクを冗長的に配列して管理する技術です。

RAID Manager

コマンドインタフェースでストレージシステムを操作するためのプログラムです。

RCU Target

属性が Initiator のポートと接続するポートが持つ属性です。

Read Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。ホストがディスクから読み出そうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Read Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

SAN

(Storage-Area Network)

ストレージシステムとサーバ間を直接接続する専用の高速ネットワークです。

SIM

(Service Information Message)

ストレージシステムのコントローラがエラーやサービス要求を検出したときに生成されるメッセージです。

SM

(Shared Memory)

詳しくは「シェアドメモリ」を参照してください。

SNMP

(Simple Network Management Protocol)

ネットワーク管理するために開発されたプロトコルの 1 つです。

SSL

(Secure Sockets Layer)

インターネット上でデータを安全に転送するためのプロトコルであり、Netscape Communications 社によって最初に開発されました。SSL が有効になっている 2 つのピア（装置）は、秘密鍵と公開鍵を利用して安全な通信セッションを確立します。どちらのピア（装置）も、ランダムに生成された対称キーを利用して、転送されたデータを暗号化します。

T10 PI

(T10 Protection Information)

SCSI で定義された保証コード基準の一つです。T10 PI では、512 バイトごとに 8 バイトの保護情報 (PI) を追加して、データの検証に使用します。T10 PI にアプリケーションおよび OS を含めたデータ保護を実現する DIX (Data Integrity Extension) を組み合わせることで、アプリケーションからディスクドライブまでのデータ保護を実現します。

Target

ホストと接続するポートが持つ属性です。

UPS

(Uninterruptible Power System)

ストレージシステムが停電や、瞬停のときでも停止しないようにするために搭載してある予備の電源のことです。

URL

(Uniform Resource Locator)

リソースの場所や種類の両方を記載しているインターネット上の住所を記述する標準方式です。

UUID

(User Definable LUN ID)

ホストから論理ボリュームを識別するために、ストレージシステム側で設定する任意の ID です。

vClone Parent 属性のボリューム

Thin Image Advanced の用語で、Family 内に vClone 属性のボリュームが存在する場合、そのメタデータの共有元になるボリュームを指します。

vClone 属性のボリューム

Thin Image Advanced の用語で、仮想クローン作成によって取得したスナップショットデータを格納するボリュームを指します。

VDEV

(Virtual Device)

パリティグループ内にある論理ボリュームのグループです。VDEV 内に任意のサイズのボリューム (CV) を作成することもできます。

VLAN

(Virtual LAN)

スイッチの内部で複数のネットワークに分割する機能です (IEEE802.1Q 規定)。

VOLSER

(Volume Serial Number)

個々のボリュームを識別するために割り当てられる番号です。VSN とも呼びます。LDEV 番号や LUN とは無関係です。

VSP One Block Administrator

ストレージシステムの構成やリソースを操作するシンプルな GUI の管理ツールです。

Windows

Microsoft® Windows® Operating System

Write Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。ホストがディスクへ書き込もうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Write Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

WWN

(World Wide Name)

ホストバスアダプタの ID です。ストレージ装置を識別するためのもので、実体は 16 桁の 16 進数です。

(ア行)

アクセス属性

ボリュームが読み書き可能になっているか (Read/Write)、読み取り専用になっているか (Read Only)、それとも読み書き禁止になっているか (Protect) どうかを示す属性です。

アクセスパス

ストレージシステム内の、データとコマンドの転送経路です。

エミュレーション

あるハードウェアまたはソフトウェアのシステムが、ほかのハードウェアまたはソフトウェアのシステムと同じ動作をすること（または同等に見えるようにすること）です。一般的には、過去に蓄積されたソフトウェアの資産を役立てるためにエミュレーションの技術が使われます。

(カ行)

外部ストレージシステム

本ストレージシステムに接続されているストレージシステムです。

外部パス

本ストレージシステムと外部ストレージシステムを接続するパスです。外部パスは、外部ボリュームを内部ボリュームとしてマッピングしたときに設定します。複数の外部パスを設定することで、障害やオンラインの保守作業にも対応できます。

外部ボリューム

外部ボリュームグループに作成した LDEV のことです。マッピングした外部ストレージシステムのボリュームを実際にホストや他プログラムプロダクトから使用するためには、外部ボリュームグループに LDEV を作成する必要があります。

外部ボリュームグループ

外部ストレージシステムのボリュームをマッピングしている、本ストレージシステム内の仮想的なボリュームです。

外部ボリュームグループはパリティ情報を含みませんが、管理上はパリティグループと同じように取り扱います。

書き込み待ち率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。キャッシュメモリに占める書き込み待ちデータの割合を示します。

仮想ボリューム

実体を持たない、仮想的なボリュームです。Dynamic Provisioning で使用する仮想ボリュームを DP-VOL と呼びます。

監査ログ

ストレージシステムに対して行われた操作や、受け取ったコマンドの記録です。Syslog サーバへの転送設定をすると、監査ログは常時 Syslog サーバへ転送され、Syslog サーバから監査ログを取得・参照できます。

管理ツールの操作端末

ストレージシステムを操作するためのコンピュータです。

キャッシュ

チャネルとドライブの間にあるメモリです。中間バッファとしての役割があります。キャッシュメモリとも呼ばれます。

共用メモリ

詳しくは「シェアドメモリ」を参照してください。

クラスタ

ディスクセクターの集合体です。OS は各クラスタに対しユニークナンバーを割り当てし、それらがどのクラスタを使うかに応じて、ファイルの経過記録をとります。

形成コピー

ホスト I/O プロセスとは別に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを同期させるプロセスです。

更新コピー

形成コピー（または初期コピー）が完了したあとで、プライマリボリュームの更新内容をセカンダリボリュームにコピーして、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの同期を保持するコピー処理です。

コピー系プログラムプロダクト

このストレージシステムに備わっているプログラムのうち、データをコピーするものを指します。ストレージシステム内のボリューム間でコピーするローカルコピーと、異なるストレージシステム間でコピーするリモートコピーがあります。

コマンドデバイス

ホストから RAID Manager コマンドを実行するために、ストレージシステムに設定する論理デバイスです。コマンドデバイスは、ホストから RAID Manager コマンドを受け取り、実行対象の論理デバイスに転送します。

Out-of-band 方式で接続された RAID Manager、もしくは内蔵 CLI を用いて設定してください。

コマンドデバイスセキュリティ

コマンドデバイスに適用されるセキュリティです。

コンシステンシーグループ

コピー系プログラムプロダクトで作成したペアの集まりです。コンシステンシーグループ ID を指定すれば、コンシステンシーグループに属するすべてのペアに対して、データの整合性を保ちながら、特定の操作を同時に実行できます。

(サ行)

サーバ証明書

サーバと鍵ペアを結び付けるものです。サーバ証明書によって、サーバは自分がサーバであることをクライアントに証明します。これによってサーバとクライアントは **SSL** を利用して通信できるようになります。サーバ証明書には、自己署名付きの証明書と署名付きの信頼できる証明書の 2 つの種類があります。

サブシステム NQN

NVM サブシステムに定義された **NQN** です。
NQN の詳細については、「**NQN**」を参照してください。

差分テーブル

コピー系プログラムプロダクトおよび **Volume Migration** で共有するリソースです。**Volume Migration** 以外のプログラムプロダクトでは、ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータに差分があるかどうかを管理するために使用します。**Volume Migration** では、ボリュームの移動中に、ソースボリュームとターゲットボリュームの差分を管理するために使用します。

シェアドメモリ

キャッシュ上に論理的に存在するメモリです。共用メモリとも呼びます。ストレージシステムの共通情報や、キャッシュの管理情報（ディレクトリ）などを記憶します。これらの情報を基に、ストレージシステムは排他制御を行います。また、差分テーブルの情報もシェアドメモリで管理されており、コピーペアを作成する場合にシェアドメモリを利用します。

自己署名付きの証明書

自分自身で自分用の証明書を生成します。この場合、証明の対象は証明書の発行者と同じになります。ファイアウォールに守られた内部 **LAN** 上でクライアントとサーバ間の通信が行われている場合は、この証明書でも十分なセキュリティを確保できるかもしれません。

システムプールボリューム、システムプール VOL

プールを構成するプールボリュームのうち、1 つのプールボリュームがシステムプールボリュームとして定義されます。システムプールボリュームは、プールを作成したとき、またはシステムプールボリュームを削除したときに、優先順位に従って自動的に設定されます。なお、システムプールボリュームで使用可能な容量は、管理領域の容量を差し引いた容量になります。管理領域とは、プールを使用するプログラムプロダクトの制御情報を格納する領域です。

ジャーナルボリューム

Universal Replicator の用語で、プライマリボリュームからセカンダリボリュームにコピーするデータを一時的に格納しておくためのボリュームのことです。ジャーナルボリュームには、プライマリボリュームと関連づけられているマスタジャーナルボリューム、およびセカンダリボリュームと関連づけられているリストアジャーナルボリュームとがあります。

シュレディング

ダミーデータを繰り返し上書きすることで、ボリューム内のデータを消去する処理です。

詳細 API

リクエストラインに **simple** を含まない **REST API** です。ストレージシステムの情報取得や構成変更することができます。

DKCMAIN バージョンが **A3-04-22-XX** 以前のマニュアルでは、「**REST API**」と表記しています。

冗長パス

チャネルプロセッサの故障などによって LUN パスが利用できなくなったときに、その LUN パスに代わってホスト I/O を引き継ぐ LUN パスです。交替パスとも言います。

初期コピー

新規にコピーペアを作成すると、初期コピーが開始されます。初期コピーでは、プライマリボリュームのデータがすべて相手のセカンダリボリュームにコピーされます。初期コピー中も、ホストサーバからプライマリボリュームに対する Read/Write などの I/O 操作は続行できます。

署名付きの信頼できる証明書

証明書発行要求を生成したあとで、信頼できる CA 局に送付して署名してもらいます。CA 局の例としては VeriSign 社があります。

シリアル番号

ストレージシステムに一意に付けられたシリアル番号（装置製番）です。

シンプル API

リクエストラインに simple を含む REST API です。ストレージシステムの情報取得や構成変更することができます。

DKCMAIN バージョンが A3-04-22-XX 以前のマニュアルでは、「VSP One Block Administrator の API」と表記しています。

スナップショットグループ

Thin Image Advanced で作成した複数のペアの集まりです。複数のペアに対して同じ操作を実行できます。

スナップショットデータ

Thin Image Advanced では、特定時点のデータの複製のことを指します。

正 VOL、正ボリューム

詳しくは「プライマリボリューム」を参照してください。

正サイト

通常時に、業務（アプリケーション）を実行するサイトを指します。

セカンダリボリューム

ペアとして設定された 2 つのボリュームのうち、コピー先のボリュームを指します。なお、プライマリボリュームとペアを組んでいるボリュームをセカンダリボリュームと呼びますが、Thin Image Advanced では、セカンダリボリューム（仮想ボリューム）ではなく、プールにデータが格納されます。

センシ情報

エラーの検出によってペアがサスペンドされた場合に、正サイトまたは副サイトのストレージシステムが、適切なホストに送信する情報です。ユニットチェックの状況が含まれ、災害復旧に使用されます。

ソースボリューム

Volume Migration の用語で、別のパリティグループへと移動するボリュームを指します。

ゾーニング

ホストとリソース間トラフィックを論理的に分離します。ゾーンに分けることにより、処理は均等に分散されます。

(タ行)

ターゲットボリューム

Volume Migration の用語で、ボリュームの移動先となる領域を指します。

チャンネルボード

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、ホストコマンドを処理してデータ転送を制御します。

重複排除用システムデータボリューム（データストア）

容量削減の設定が重複排除および圧縮の仮想ボリュームが関連づけられているプール内で、重複データを格納するためのボリュームです。

重複排除用システムデータボリューム（フィンガープリント）

容量削減の設定が重複排除および圧縮の仮想ボリュームが関連づけられているプール内で、重複排除データの制御情報を格納するためのボリュームです。

ディスクボード

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、キャッシュとドライブの間のデータ転送を制御します。

データ削減共有ボリューム

データ削減共有ボリュームは、Adaptive Data Reduction の容量削減機能を使用して作成する仮想ボリュームです。Thin Image Advanced ペアのボリュームとして使用できます。データ削減共有ボリュームは、Redirect-on-Write のスナップショット機能を管理するための制御データ（メタデータ）を持つボリュームです。

転送レート

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。1 秒間にディスクへ転送されたデータの大きさを示します。

同期コピー

ホストからプライマリボリュームに書き込みがあった場合に、リアルタイムにセカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。ボリューム単位のリアルタイムデータバックアップができます。優先度の高いデータのバックアップ、複写、および移動業務に適しています。

トポロジ

デバイスの接続形態です。Fabric、FC-AL、および Point-to-point の 3 種類があります。

ドライブボックス

各種ドライブを搭載するためのシャーシ（筐体）です。

(ナ行)

内部ボリューム

本ストレージシステムが管理するボリュームを指します。

(ハ行)

パリティグループ

同じ容量を持ち、1つのデータグループとして扱われる一連のドライブを指します。パリティグループには、ユーザデータとパリティ情報の両方が格納されているため、そのグループ内の1つまたは複数のドライブが利用できない場合にも、ユーザデータにはアクセスできます。場合によっては、パリティグループを RAID グループ、ECC グループ、またはディスクアレイグループと呼ぶことがあります。

非対称アクセス

global-active device でのクロスパス構成など、サーバとストレージシステムを複数の冗長パスで接続している場合で、ALUA が有効のときに、優先して I/O を受け付けるパスを定義する方法です。

非同期コピー

ホストから書き込み要求があった場合に、プライマリボリュームへの書き込み処理とは非同期に、セカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。複数のボリュームや複数のストレージシステムにわたる大量のデータに対して、災害リカバリを可能にします。

ピントラック

(pinned track)

物理ドライブ障害などによって読み込みや書き込みができないトラックです。固定トラックとも呼びます。

ファームウェア

ストレージシステムで、ハードウェアの基本的な動作を制御しているプログラムです。

ファイバチャネル

光ケーブルまたは銅線ケーブルによるシリアル伝送です。ファイバチャネルで接続された RAID のディスクは、ホストからは SCSI のディスクとして認識されます。

プール

プールボリューム（プール VOL）を登録する領域です。Dynamic Provisioning、および Thin Image Advanced がプールを使用します。

プールボリューム、プール VOL

プールに登録されているボリュームです。Dynamic Provisioning ではプールボリュームに通常のデータを格納します。

副 VOL、副ボリューム

詳しくは「セカンダリボリューム」を参照してください。

副サイト

主に障害時に、業務（アプリケーション）を正サイトから切り替えて実行するサイトを指します。

プライマリボリューム

ペアとして設定された2つのボリュームのうち、コピー元のボリュームを指します。

フラッシュメモリ

各プロセッサに搭載され、ソフトウェアを格納している不揮発性のメモリです。

ペア

データ管理目的として互いに関連している 2 つのボリュームを指します（例、レプリケーション、マイグレーション）。ペアは通常、お客様の定義によりプライマリもしくはソースボリューム、およびセカンダリもしくはターゲットボリュームで構成されます。

ペア状態

ペアオペレーション前後にボリュームペアに割り当てられた内部状態。ペアオペレーションが実行されている、もしくは結果として障害となっているときにペア状態は変化します。ペア状態はコピーオペレーションを監視し、およびシステム障害を検出するために使われます。

ペアテーブル

ペアを管理するための制御情報を格納するテーブルです。

ページ

DP の領域を管理する単位です。1 ページは 42MB です。

ポートモード

ストレージシステムのチャネルボードのポート上で動作する、通信プロトコルを選択するモードです。ポートの動作モードとも言います。

ホスト-**Namespace** パス

日立ストレージシステムで、**Namespace** セキュリティを使用する際に、ホスト **NQN** ごとに各 **Namespace** へのアクセス可否を決定するための設定です。
Namespace パスとも呼びます。

ホスト **NQN**

NVMe ホストに定義された **NQN** です。
NQN の詳細については、「**NQN**」を参照してください。

ホストグループ

ストレージシステムの同じポートに接続し、同じプラットフォーム上で稼働しているホストの集まりのことです。あるホストからストレージシステムに接続するには、ホストをホストグループに登録し、ホストグループを **LDEV** に結び付けます。この結び付ける操作のことを、**LUN** パスを追加するとも呼びます。

ホストグループ 0（ゼロ）

「00」という番号が付いているホストグループを指します。

ホストデバイス

ホストに提供されるボリュームです。**HDEV**（Host Device）とも呼びます。

ホストバスアダプタ

オープンシステム用ホストに内蔵されているアダプタで、ホストとストレージシステムを接続するポートの役割を果たします。それぞれのホストバスアダプタには、16 桁の 16 進数による ID が付いています。ホストバスアダプタに付いている ID を **WWN**（Worldwide Name）と呼びます。

ホストモード

オープンシステム用ホストのプラットフォーム（通常は OS）を示すモードです。

(マ行)

マイグレーションボリューム

HUS VM などの異なる機種ストレージシステムからデータを移行させる場合に使用するボリュームです。

マッピング

本ストレージシステムから外部ボリュームを操作するために必要な管理番号を、外部ボリュームに割り当てることです。

(ラ行)

ラック

電子機器をレールなどで棚状に搭載するフレームのことです。通常幅 19 インチで規定されるものが多く、それらを 19 型ラックと呼んでいます。搭載される機器の高さは EIA 規格で規定され、ボルトなどで機器を固定するためのネジ穴が設けられています。

リザーブボリューム

ShadowImage のセカンダリボリュームに使用するために確保されているボリューム、または Volume Migration の移動先として確保されているボリュームを指します。

リソースグループ

ストレージシステムのリソースを割り当てたグループを指します。リソースグループに割り当てられるリソースは、LDEV 番号、パリティグループ、外部ボリューム、ポートおよびホストグループ番号です。

リモートコマンドデバイス

外部ストレージシステムのコマンドデバイスを、本ストレージシステムの内部ボリュームとしてマッピングしたものです。リモートコマンドデバイスに対して RAID Manager コマンドを発行すると、外部ストレージシステムのコマンドデバイスに RAID Manager コマンドを発行でき、外部ストレージシステムのペアなどを操作できます。

リモートストレージシステム

ローカルストレージシステムと接続しているストレージシステムを指します。

リモートパス

リモートコピー実行時に、遠隔地にあるストレージシステム同士を接続するパスです。

リンクアグリゲーション

複数のポートを集約して、仮想的にひとつのポートとして使う技術です。
これによりデータリンクの帯域幅を広げるとともに、ポートの耐障害性を確保します。

レスポンスタイム

モニタリング期間内での平均の応答時間。あるいは、エクスポートツール 2 で指定した期間内でのサンプリング期間ごとの平均の応答時間。単位は、各モニタリング項目によって異なります。

ローカルストレージシステム

管理ツールの操作端末を接続しているストレージシステムを指します。

索引

V

Volume Shredder 11

し

ジャーナルボリューム 13

シュレッディング 11

シュレッディング回数

フラッシュディスク 18

シュレッディング機能

概要 12

所要時間 13

シュレッディングの実行

ボリューム 19

た

タミーデータ 12

と

トラブルシューティング 21

ふ

プール VOL 13

プールボリューム 13

ほ

ボリュームの閉塞

ボリューム 19

 日立ヴァンタラ株式会社

〒 244-0817 神奈川県横浜市戸塚区吉田町 292 番地
